

(様式第8号)

事業報告書（令和4年度）

事業名 SDGsに資する里山の再生事業 ～ 南海トラフ地震対策に向けて(7) ～

団体名 就実・森の学校 担当者名 石田省三

※活動の様子がわかる写真と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

活動記録

年間を通して、防災協定を締結している周辺町内会からの避難経路の整備点検を実施している。特に台風、大雨の後は倒木等の処理のため出動する。令和4年1月末の強風、積雪時の対応が今期最終の活動となった。「就実・森の学校」の令和4年度の活動を以下に列挙する。

①	4月19日	春の里山散策	小学生	105	軽登山、植物観察
②	4月26日	春を訪ねて	こども園	41	軽登山、植物観察
③	5月23,24日	森林環境学習	中学生	61	植生観察、野外生活体験
④	6月4日	フォレストサポーターズ講座(1)	高校生	62	植生観察
⑤	6月19日	28回グリーンボランティア	一般	10	アカマツ林整備
⑥	6月25日	笠井山山頂部整備(1)	一般	20	遊歩道新設、竹林伐採
⑦	8月19日	竹林整備	高校生	80	竹伐採、体育祭使用
⑧	9月4日	めざせ防災博士	小学生	15	起震車他共催：里山センター
⑨	10月4日	どんぐり遠足	小学生	120	
⑩	10月17日	全国植樹祭スクールステイ	こども園	40	令和6年岡山で開催
⑪	10月22日	フォレストサポーターズ講座(2)	高校生	70	防災講座・竹炭焼成体験
⑫	10月25日	野外生活体験	小学生	40	竹炭、木材による炊飯、竹食器作り
⑬	10月26日	どんぐり遠足	こども園	36	秋の里山歩き
⑭	11月3日	29回グリーンボランティア	中・高・大	76	アカマツ林整備
⑮	11月19日	全国植樹祭スクールステイ	高校生	29	アラカシ苗作り作業
⑯	11月27日	30回グリーンボランティア	中・高・大	61	アカマツ林整備
⑰	12月3日	笠井山山頂部整備(2)	一般	10	遊歩道新設、竹林伐採
⑱	12月16日	笠井山山頂部整備(3)	一般	10	遊歩道新設、竹林伐採
⑲	12月16日	里山体験	中学生	35	
⑳	12月25日	笠井山山頂部整備(4)	一般	10	遊歩道新設、竹林伐採
㉑	12月27日	笠井山山頂部整備(5)	一般	15	遊歩道新設、竹林伐採
㉒	1月9日	笠井山山頂部整備(6)	一般	10	遊歩道新設、竹林伐採
㉓	1月21日	フォレストサポーターズ講座(3)	高校生	32	
㉔	1月28日	笠井山山頂部整備(7)	一般	10	遊歩道新設、竹林伐採
㉕	1月30日	避難経路点検整備	一般	10	

2. ESD の視点
<p>①事業を通じて、参加者にどのような気づきや意識・行動の変容があったか</p> <p>里山で実施する様々な活動を通して、次世代を担う幼児から小・中学生また高校生、さらには一般の人たちに、里山再生活動の重要性を認識してもらうように努めてきた。今年度は本事業の重要課題の一つである防災に取り組んで9年目となるが、活動内容及び新たな視点からの取り組みについても報告する。</p> <p>今年度も例年同様、避難地の整備、避難経路を維持するための道の整備、また緊急用エネルギー源として利用するための竹炭・木炭を焼成し、備蓄していく活動を実施した。活動も9年目を迎え、複数回の参加者は炭焼きに熟達して来たようだ。初回参加者に積極的に教え、焼成した者を備蓄する姿がよく見られるようになりこの活動が定着してきたことがわかる。一方、備品等も老朽化してきたことから、今年度は竹炭を焼成する「スミヤケール」5基(125,000円)を更新した。この一連の活動は続けることに意義があり次年度も継続させていくことが決まっている。</p> <p>また「就実・森の学校」の活動は緑の回復にも力を入れている。松食い虫被害により絶滅しつつあるアカマツ林の再生も重要課題の1つとして取り組んでおり一定の成果を上げているが、今年度はSDGsの目標のひとつである気候変動にも注目し、植林したアカマツの二酸化炭素吸収量を調査(岡山県二酸化炭素森林吸収評価認定制度による)し、中高生に気候変動と里山の関係性についても考えさせるよいきっかけとなった。この気候変動に対する活動も継続していくよう計画している。</p>
<p>②どのように学び合いを取り入れたか</p> <p>本活動は、森の学校の構成員(中・高校生)と地域住民が一体となって活動しているが、複数回参加者が初回参加者にそれぞれの活動技術を教え合うようなシステムが出来つつある。</p>
<p>③どのような学びと実践を結び付ける工夫を行ったか</p> <p>イベントにより異なるが、前日の座学での事前学習をもとにそれぞれの活動を展開し、活動後の振り返りにより内容の定着を図るようにしている。</p>
<p>3. 取組の成果(事業計画書に記載した事業の目的・目標をどのように達成できたか。事業を実施してどのような成果があったか。)</p> <p>本事業は巨大災害に対する防災活動を中心として実施しているが、内容的には①避難地の整備②避難経路の整備③避難物資の備蓄④防災訓練等の実施⑤防災協定を締結している町内会との連絡協議が中心となっている。</p> <p>5項目の目標に対して①～③は今年度の目標を十分ではないが概ね達成出来たと思われる。④については岡山市里山センターとの連携で、幼児を対象に一度実施することが出来た。</p>
<p>4. 今後の課題と展望(事業がどのように岡山地域のESDの取組と持続可能な社会づくりの発展・継続につながるか)</p>
<p>本事業は極めて長い計画のもとに実施しており、短期的な成果は求めにくい。</p>

(様式第8号)

しかし、本事業を進めていくことで、参加者一人一人の防災意識が向上していくことを期待している。

また、より本格的な防災地として機能していくことが出来るよう、資金的な援助についても考えていきたい。